

(

2012年（平成24年）4月 28日 土曜日

豪

一

新

五

第3種郵便物認可

広告

企画・制作 朝日エージェンシー

糖尿病とフットケア あなたの足もと健康ですか?

の見直しが何よりも大切。そして、ちょっととした異変でも、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

また、糖尿病患者さんの場合、靴ずれが下肢切断に至る最初の原因となることが多いため、適切な靴選びも重要。健康な人でも、靴ひもをしつかり締めずに履いたり、合わない靴を履き続けることで、膝や腰まで悪くなるケースが少なくありません。

「NPO法人足もと健康サポートねつと」のHPでは、足の異常に対し適切かつ横断的なアドバイスができる医療機関・靴販売店・義肢装具メーカーなどを紹介していますので、足の状態に悩みのある方は是非、ご覧になって下さい。(談)

最悪のケースを防ぐため 早めの受診と生活の見直しを

る、爪が皮膚に食い込み始めているなど、外観上の異変に気づきにくいもの。また、ちょっとした痛みや違和感なら、放置する患者さんも多いようです。

特に糖尿病の合併症で神経障害を発症している患者さんの場合は、重症の病変でも痛みを感じないことがあります。しかし、足の病変を放置していると、皮膚にできた傷口や水虫などから感染して組織が壊死し、最悪の場合、足を切断しなければならないこともあるのです。糖尿病患者の増加に伴い、下肢切断を余儀なくされる患者さんの数も増えています。

重篤な症状になるケースも

り、生活習慣病の患者数が増えていきます。以前ならば生活習慣病が重症化した患者さんは、脳梗塞や心筋梗塞、糖尿病性腎症などで死亡する確率が高まっています。しかし近年は、薬やカテーテル治療、透析治療の進歩で、糖尿病や動脈硬化が進行しても、昔よりは長生きできるようになつたのです。

ただし、それら患者さんの血管はかなり傷んでいますから、心臓や脳だけでなく足の血管もどうようと傷んでいることも多く、しびれやむくみ、歩行中の痛みなど、様々な足の症状が現れるようになります。

生活習慣病が原因で 増加する足の病変

しづれや痛みなど、足の異常を自覚していても、どの診療科を訪れるべきか判らずに放置している人が多いという。また、患者に適した靴の選び方や歩き方の指導まで行える医療機関も、ごく少数なのが現状だ。そこで昨年、九州内の医療関係者と、靴やインソールの製造・販売業界、フットケアサロン業界などが連携を図り、「NPO法人 足もと健康サポートねっと」を発足。足に悩みを持つ人々のサポートに取り組んでいる。同法人の理事長であり、社会医療法人喜悦会那珂川病院 血管外科部長の竹内一馬氏に、足の健康について聞いた。

社会医療法人喜悦会 那珂川病院 血管外科部長

竹内一馬

(たけうち かずま) 1997年福岡大学医学部卒業、第二内科入局、2004年医学部心臓血管外科助教。05年静岡市立静岡病院心臓血管外科、2010年より福岡大学医学部心臓血管外科同科講師・医局長。2011年那珂川病院血管外科部長。日本外科学会認定専門医、日本循環器学会認定循環器専門医・日本脈管学会認定脈管専門医、日本フットケア学会評議員、ジャパンマゴット治療教育研修会推進会員顧問。日本大時政洛・足病学会評議員など。

